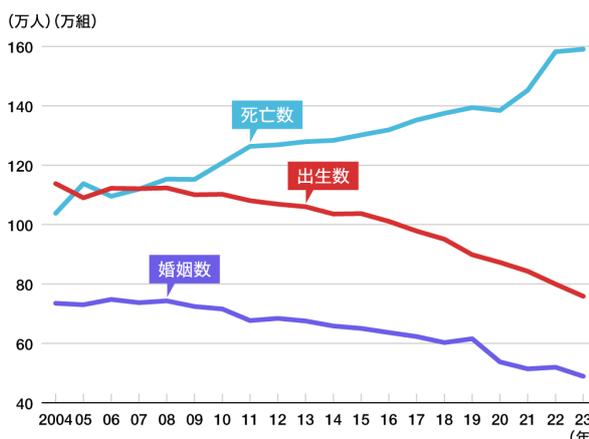


死亡数は 前年比 8470 人増の **159 万 503 人** で過去最多を記録しました。人口の自然減 (出生数と死亡数の差) は、21 年に初めて 60 万人を超えたが、22 年は 78 万 2305、**23 年は 83 万 1872 人** と増加し多死社会となり、年を追うごとに人口減に拍車がかかっています。

(図 2)

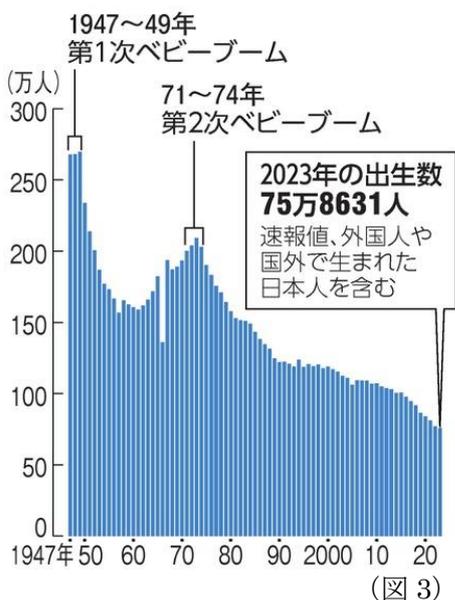
### 人口動態統計速報



(図 2)

### 出生数は8年連続で減少している

厚生労働省の人口動態統計から。23年以外は確定値、国内で生まれた日本人の子ども



(図 3)

日本の出生数は終戦直後の第1次ベビーブーム (1947～49年) には、250 万人、第2次ベビーブーム (71～74年) には 200 万人を超えました。その後は一貫して減り続け、**第2次ベビーブーム世代の出産ブームも起こらぬままに、2007年以降は自然減の幅が拡大**しています。(図3)

婚外子(非嫡出子)の少ない日本では、婚姻数減少が出生数の減少にほぼ直結します。**23年の婚姻件数は 48 万 9281 組と戦後初めて 50 万を割り込み**ました。誘引として若い世代の結婚に対して意識の変化もあり、婚姻数が急に戻る

のは難しいとした上で「出生数の減少傾向はしばらく続きそうだ」と分析しています。結婚をめぐる意識変化しない限り少子化に歯止めがかからないものと思われます。更に コロナ禍で結婚する人が減ったことも一つ要因と分析しています。コロナ禍から「平時」に移りつつありますが、23年も婚姻数が大きく減少したために、出生数も減少傾向が続くものと推察しています。



おんぶした 孫が背を貸し 通院日

子の未来 幸せだろうか この星で

車椅子 乗る人 押す人 みな老人

令和6年 春 分

